

生駒市長 小紫 雅史 様

生駒市環境マネジメントシステム推進会議
会 長 楠下 孝雄

環境監査報告書

当会議は、平成 29 年度における貴市の環境マネジメントシステムに基づく取組に関して、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 総合所見

1-1 全般的事項

独自のシステム導入後 3 回目の監査ということもあって、エコオフィスの取組だけでなく独自取組を進められている部署が多くなってきており、環境行動への取組が定着してきた事を確認しました。

また、幼稚園や小中学校及び各施設では横の連携が深まり、地域を巻き込んで環境活動に取り組む機会が増えるなどの特徴がみられ、市の施設全域に環境行動が展開されていることを実感しました。なお、各部門では、本来業務における環境配慮が進んできました。

さらに、独自施策の取組みをすすめていただくよう期待します。

今後は、「持続可能な開発目標（SDG s）」の考え方も取入れ、また、生駒市環境基本計画や上位計画の生駒市総合計画と整合して各部門の一層の連携強化を図り、この環境マネジメントシステムを重要な仕組みとして長期的に推進されることを期待します。

1-2 個別的事項

(1) 指 標

【帳票 1】環境マネジメントシステム目標達成状況

・市域における数値目標

市域における数値目標では、12 項目のうち「エネルギー消費量削減率」、「家庭系ごみの排出量」、「代替交通の新規路線」の 3 項目において目標年度より前倒しで達成しております。

達成率では、昨年度より 8 個で上昇、6 個で下降し、相対的には良好に進んでいます。

しかしながら、一部の項目で、目標設定当初において想定することができなかった社会情勢の変化などの要因で、従来の評価方法では数値目標を達成することが難しい状況も散見されます。

数値目標の未達成原因をしっかりと捉えたうえで、例えば、評価方法を年度ごとの積み上げ方式から、原単位方式へ変更するなどの検討をしてください。

特に、事業系ごみ削減率は、事業所の増加に比例してごみの排出量も増加しており、今後も削減率のマイナスが見込まれます。指標として、ごみの排出量を事業所の総床面積で除すなど、増加量が許容範囲かどうか確認した上で、適切な進捗管理を行ってください。

・公共施設における数値目標

11項目のうち、前年度に比べ「二酸化炭素排出量の削減」、「電気使用量の削減」、「LPG使用量の削減」の3項目の評価が上がり、逆に「ガソリン使用量の削減」、「軽油使用量の削減」の2項目で下がり、6項目は変わらずで、全般的には29年度の取組状況で若干の改善がみられました。

街路灯・防犯灯の省電力(LED)化、竜田川浄化センター設備の運用方法の改善による大幅な電力使用量の削減のほか、山麓公園ふれあいセンターや教育施設によるLPGの削減などが顕著に表れる一方で、紙類の使用量については年々増加傾向にあります。

シティブロモーションを意識した取組やイベント数の増加による紙類の使用量の増加は理解できますが、会議でのプロジェクターの効率的な使用やメール配信によるペーパーレス化の取組など、工夫による削減も併せて進めてください。

(2) 計画に基づく施策

【帳票2】個別事業に関する進捗状況等

全63の取組のうち、「計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施」が5個、「ほぼ計画通り」が53個、「計画より遅れている」が5個となっており、ほとんどの取組が計画通り実施できていることは評価できます。

(3) エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況等

【帳票3】【帳票3別紙】

添付1の集計結果からも分かるように、エコオフィスの取組に加え、独自施策の取組を実施している所属が増加したことは評価できます。

目標によって数値的に表すことが難しいものもありますが、極力、目標設定時に数値目標を示し、定量的に進行管理を行うよう努めてください。

優良事例においては、定量的な把握に基づき適正に進行管理され、見える化による情報共有を図られ、実績を上げられている取組や組織内連携にとどまらず、地域住民や他市との連携など幅広く取組まれる事例が選ばれました。今後のさらなる展開に期待しています。

1-3 各部署の監査への対応について

今回も昨年に引き続き、書面監査及びヒアリング監査の2通りの監査を実施しました。ヒアリング監査では、監査員が5班に分かれ、1班3人ずつ各所属を回り、30分の時間の中で、それぞれが取組む具体的な事例について熱心にご説明いただき、我々監査員との会話もスムーズに行えた事において、感謝の意を表します。

しかしながら、一部の部署においては担当者が異動し、引継ぎが不十分な状態でのヒアリングにのぞまれ、内容確認ができなかったなど、運用についての課題も散見されました。

今回、書面監査のみの部署におかれましても、引き続き日常的な啓発の実施をお願いするとともに、この監査を「改善の機会」と捉えて、幅広い分野でのレベルアップのきっかけとしていただくことを期待します。

2. 実施概要

2-1 実施方法及び監査対象

主として次の3帳票をもとに、それぞれ対象となる所属に対して監査を実施しました。

帳票種別	監査対象とする項目	監査対象所属
【帳票1】指標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画、エネルギービジョン、環境モデル都市アクションプラン¹で掲げている数値目標の達成状況 ・公共施設における数値目標の達成状況 	環境モデル都市推進課
【帳票2】個別事業に関する進捗状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画、エネルギービジョン、環境モデル都市アクションプランに定めている施策の取組状況 	各計画の個別事業担当所属 18ヶ所 広報広聴課、防災安全課、市民活動推進課、環境モデル都市推進課、経済振興課（農林課、商工観光課）、環境保全課、健康課、管理課、都市計画課・学研推進室・住宅政策室、建築課、みどり公園課、下水道課、竜田川浄化センター、上下水道部総務課、浄水場、教育総務課、教育指導課、生涯学習課
【帳票3】エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況 【帳票3（別紙）】上記の実施状況 記入シート	<ul style="list-style-type: none"> ・エコオフィスの取組（全職員に共通した取組）、本来業務における環境配慮、独自施策（各部署の取組）の取組・実施状況 	10部1室の各所属、学校、幼稚園、保育園、施設（指定管理施設を含む）全124ヶ所

¹環境モデル都市アクションプランのフォローアップ指標については、特に専門的な知見を要するため、有識者や関連企業・団体で構成する「環境モデル都市推進協議会」で確認を行います。

（参考）環境モデル都市推進協議会平成29年度開催状況及び会議録のページ

<http://www.city.ikoma.lg.jp/00000012345.html>

2-2 実施内容

(1) 指標【帳票 1】

・書面監査（平成 30 年 8 月 21 日）

環境モデル都市推進課から提出された帳票を、専門チーム会議にて確認しました。

市域における数値目標については、目標に対して進捗が遅れている項目を中心に要因の確認を行い、公共施設における数値目標については、3-1 のとおり、評価を決定しました。

(2) 個別事業に関する進捗状況等【帳票 2】、エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況【帳票 3】、エコオフィス、本来業務における環境配慮項目の実施状況【帳票 3 別紙】

・書面監査（平成 30 年 6 月 7 日～6 月 20 日）

提出された全所属の帳票について、班ごとに担当分を確認し、各所属フィードバック用のコメントとして「評価できる点」「改善を要する点」を記入しました。

・ヒアリング監査

①ヒアリング先の選定（平 30 年 6 月 29 日）

監査対象 124 ヶ所から提出された帳票を用いて、以下の観点等から昨年同様、ヒアリング先 34 ヶ所を選定しました。

【選定の観点】

- ・取組が不十分だと思われる所属
- ・優れた取組を実施しており、他所属の参考になるとと思われる所属

【ヒアリング選定先一覧】

1 班	2 班	3 班	4 班	5 班
清掃リレーセンター	たけまるホール	健康課	清掃センター	消防本部予防課
小平尾南スポーツ施設	上下水道部総務課	農林課・商工観光課 (旧 経済振興課)	みどり公園課	市民活動推進センター
花のまちづくりセンターふろーらむ	生駒南中学校	あすか野小学校	テレワーク&インキュベーションセンターイコマド	下水道課
真弓小学校	あすか野幼稚園	大瀬中学校	生駒駅前図書館	スポーツ振興課
生駒中学校	会計課	消防南分署	やすらぎの杜 優楽	エコパーク 21
いこまの魅力創造課	壱分小学校	環境保全課	総務課	生駒南小学校
営繕課	生駒小学校	光明中学校	市民活動推進課	

※上記の 34 所属以外に、環境施策を包括的に所管している環境モデル都市推進課については、毎年度監査を実施することとしています。

②ヒアリングの実施（平成 30 年 7 月 18 日及び 25 日）

提出された帳票をもとに、2～3 名の監査員が 30 分程度でヒアリング及び現場の確認を実施しました。

班分け	ヒアリング先	担当委員
1 班	清掃リレーセンター、小平尾南スポーツ施設、花のまちづくりセンターふろーらむ、真弓小学校、生駒中学校、いこまの魅力創造課、営繕課	楠下委員、寒川委員、宮地委員
2 班	たけまるホール、上下水道部総務課、生駒南中学校、あすか野幼稚園、会計課、壱分小学校、生駒小学校	小宮山委員、青木委員、藤村委員
3 班	健康課、農林課・商工観光課（旧経済振興課）、あすか野小学校、大瀬中学校、消防南分署、環境保全課、光明中学校	楠委員、宮崎委員、中畑委員
4 班	清掃センター、みどり公園課、テレワーク&インキュベーションセンターイコマド、生駒駅前図書室、やすらぎの杜 優楽、総務課、市民活動推進課	矢田委員、奥田委員、桜井委員
5 班	消防本部予防課、市民活動推進センター、下水道課、スポーツ振興課、エコパーク 2 1、生駒南小学校	寺内委員、新海委員、杉山委員

3. 結果

3-1 指標【帳票1】数値目標達成状況

・市域における数値目標

項目		基準年度	目標年度	目標数値	基準年度実績値	2017(平成29)年度 実績値	目標達成状況 (達成率)	備考
温室効果ガス排出量 削減率 (単位: 万t-CO ₂)		2006 (平成18)年度	2018 (平成30)年度	-14% =28.0	32.5	29.8 ※	60.0%	
			2030 (平成42)年度	-35% =21.1				
			2050 (平成62)年度	-70% =9.8				
エネルギー消費量 削減率 (単位:TJ)		2006 (平成18)年度	2018 (平成30)年度	-5% =7012.5	7381.6	6681.8 ※	189.6%	
			2030 (平成42)年度	-20% =5905.3				
再生可能エネルギーの普及 (単位:基)		2011 (平成23)年度	2018 (平成30)年度	普及率16.5% =4,650	1,350	3,200	56.1%	固定価格買取制度の単価引下げの影響で、年度ごとの増加基数の伸び率は、平成24年度をピークに低下傾向にある。しかしながら、設置者への補助金交付件数は毎年100件以上増加している。
			2030 (平成42)年度	普及率30% =8,454				
太陽光発電によるエネルギー自給率 (単位: kW)		-	2030 (平成42)年度	15% =46,700	-	24,800	53.1%	
ごみ排出量	家庭系ごみ 排出量(1人1日当たり) (単位:g/人日)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	-15% =570.0	673.2	553.1	116.4%	*家庭系ごみ排出量は、家庭系ごみ有料化導入(平成27年度)以降3年連続して目標値を達成した。 *事業系ごみ排出量は事業系指定ごみ袋導入(平成24年度)で一時的な削減はみられたが、平成25年度以降は増加傾向にある。事業所数の増加や大型店舗の進出などの影響が考えられる。しかしながら、事業所の総床面積あたりのごみ排出量は前年度より3%減少した。
	再資源化率 (単位:%)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	30	16.8	23	47.0%	
	事業系ごみ 排出量(年間) (単位:t)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	6,721	9,128	9,000	5.3%	
公共交通	鉄道利用者数 増加率 (単位:千人)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	現状維持~+0.5% =19,306	19,210	18,949	-271.9%	近鉄奈良線、生駒線、宝山寺線の利用者は減少、近鉄けいはんな線の利用者は増加している。しかしながら、人口が減少に転じたことや高齢化が進んでいることから利用者は減少傾向にある。 ※市外の利用者が多い学研登美ヶ丘駅(けいはんな線)の利用者数は実績値に含めていない。
	路線バス利用者数 増加率 (単位:千人)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	+10% =5,586	5,078	5,172	18.5%	
	代替交通の新規路線 (単位:本)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	コミュニティバスなどの代替交通の新規路線を複数ルート実現	1	6	○	
竜田川の水質 (単位:mg/L)		2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	観測地点ごとの年間平均でBOD(生物化学的酸素要求量)5mg/L以下	阪奈道路下		竜田川本流への生活排水の混入、降雨量が少ないことによる自然水量の減少などの理由から、4測定点とも目標値を達成できていない。	
					16	7.7		75.5%
					東生駒川合流前			
					10	6.7		66.0%
					大宮橋下			
					9.8	5.4		91.7%
市境								
8.0	5.4	86.7%						
環境活動 参加人数(計画開始年度からの累計) (単位:人)		2009(平成21)年度以降の累計	2018 (平成30)年度	117,000	-	108,045	92.3%	

※温室効果ガス排出量と、エネルギー消費量については、2016年度の実績(暫定値)です。

・市域における数値目標（目標数値の考え方と算出方法）

項目	考え方と算出方法
温室効果ガス排出量削減率	環境基本計画において、2006（平成 18）年度比で、2018（平成 30）年度までに 14%削減するという目標を立てています。目標年度の 2030（平成 42）年度、2050（平成 62）年度の 2 つは、環境モデル都市アクションプランに掲げる目標です。中期目標として、2006（平成 18）年度比で、2030（平成 42）年度までに 35%削減、長期目標として、2006（平成 18）年度比で、2050（平成 62）年度までに 70%削減するという目標を掲げており、参考に記載しています。
エネルギー消費量削減率	エネルギービジョンにおいて、2006（平成 18）年度比で、2018（平成 30）年度に 5 %、2030（平成 42）年度に 20%削減するという目標を立てています。
再生可能エネルギーの普及	エネルギービジョンにおいて、2011（平成 23）年度比で 2018（平成 30）年度に普及率 16.5%、2030（平成 42）年度に普及率 30% という導入目標を立てています。普及率は、太陽光発電の設置基数を一戸建て件数で除したものとなります。一戸建て件数は、28,180 件（総務省平成 2 0 年住宅・土地統計調査）としています。
太陽光発電によるエネルギー自給率	<p>エネルギービジョンにおいて、2030（平成 42）年度の電力需要見込みに対する太陽光発電による自給率を 15%とするという目標を立てています。目標数値は下記の方法により算出しています。</p> <p>①2030（平成 42）年の電力需要見込み 2012（平成 24）年度市域の電力使用量の 80%の数値とする。 413,117,311 kWh/年×80%≒330,493,849 kWh/年</p> <p>②目標自給率 15%</p> <p>③太陽光発電設置容量 1kW あたりの年間発電量 1,063 kWh とする。</p> <p>①×②÷③ =46,636.00879…≒ 46,700 kW</p>
ごみ排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭系ごみ排出量 2007（平成 19）年度比で、1 人 1 日あたり排出量を 2018（平成 30）年度までに 15%削減するという目標を立てています。 ・再資源化率 2007（平成 19）年度比で、再資源化率を 2018（平成 30）年度までに 30%にするという目標を立てています。 ・事業系ごみ排出量 2007（平成 19）年度比で、年間排出量を 2018（平成 30）年度までに 6,721 t に削減するという目標を立てています。
公共交通	<p>環境基本計画において、2007（平成 19）年度を基準とし、2018（平成 30）年度を目標年とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道利用者数 現状維持から 0.5%増に。 ・路線バス利用者数 10%増に（生駒駅・東生駒駅発着路線のみ）。 ・コミュニティバスなどの代替交通の新規路線を複数ルート実現 といった目標を立てています。
竜田川の水質	竜田川の水質を、4 つの観測地点ごとの年間平均で BOD（生物的酸素要求量）5mg/L 以下になる目標を立てています。
環境活動 参加人数 (計画開始年度からの累計)	2009（平成 21）年度からの累計が、2018（平成 30）年度を目標年度で、2007（平成 19）年 10 月現在の生駒市の総人口 11.7 万人になることを目指しています。

・公共施設における数値目標

目的	項目	平成29年度目標	平成29年度目標値		平成29年度実績値			目標達成率	評価	備考
			削減目標	削減率	削減実数					
					削減量	削減率	削減実数			
地球温暖化の防止	二酸化炭素排出量の削減	市の事務・事業から排出される二酸化炭素排出量の総量を2010(平成22)年度比で15.2%以上削減する。(1,138t-CO ₂ 相当)	-15.2%	1,138t-CO ₂	-15.3%	1,149t-CO ₂	1,149	100.9%	○	
	電気	電気使用量を2010(平成22)年度比で15.0%以上削減する。(2,261千kWh相当)	-15.0%	2,261千kWh	-15.4%	2,314千kWh	821	102.3%	○	街路灯・防犯灯のLED化、たけまるホールの空調設備改修による削減
	ガソリン	ガソリン使用量を2010(平成22)年度比で20.0%以上削減する。(15,526ℓ相当)	-20.0%	15,526 ℓ	-15.9%	12,369 ℓ	29	79.7%	△	消防救急車輛の出動件数の増加(平成22年度比1.22倍)
	軽油	軽油使用量を2010(平成22)年度比で60.0%以上削減する。(37,576 l相当)	-60.0%	37,576 ℓ	-56.3%	35,263 ℓ	91	93.8%	○	特に大きな変動はなかった
	都市ガス	都市ガス使用量を2010(平成22)年度比で21.0%以上削減する。(52,181kg相当)	-21.0%	52,181kg	-7.8%	19,462 kg	62	37.3%	×	夏場の高温による空調設備稼働増による影響で増加(北コミュニティセンター、消防本部、市役所、図書館)
	重油	重油使用量を2010(平成22)年度比で10.0%以上削減する。(29,640ℓ)	-10.0%	29,640 ℓ	-19.1%	54,650 ℓ	148	189.7%	◎	特に大きな変動はなかった
	灯油	灯油使用量を2010(平成22)年度比で25.6%以上削減する。(7,724ℓ)	-25.6%	7,724 ℓ	-20.4%	6,159 ℓ	15	78.0%	△	特定施設の排煙軽減措置による燃焼時間の増加
	LPG	LPG使用量を2016(平成28)年度比で増加させない。 ※2016(平成28)年度実績:72t	—	—	-22.0%	16.342 t	49	78.2%	◎	教育施設における空調設備や給湯機の適正使用による削減
循環型社会の構築	紙類使用量	OA用紙の使用量を2016(平成28)年度比で5.0%以上削減する。(2015(平成27)年度比で増加させない)(3,211kg相当)	-1.8%	3,211 kg	3.1%	▲1,970 kg	—	-61.2%	×	イベント、啓発等の新たな発信の機会が増えている
	ごみ排出量	ごみの排出量を2009(平成21)年度比で50.0%以上削減する。(39,947 kg相当)	-50.0%	39,947 kg	-45.1%	36,006kg	—	90.1%	○	特に大きな変動はなかった
健全な水循環	水使用量	水使用量を2016(平成28)年度比で増加させない。 (2016(平成28)年度実績:236,712m ³)	—	—	-9.9%	23,461 m ³	—	90.1%	○	特に大きな変動はなかった

「削減する」目標に対する評価

評価区分	4段階評価
110%以上	◎
90~110%未満	○
60~90%未満	△
60%未満	×

「増加させない」目標に対する評価

評価区分	4段階評価
105%以上	×
100.1~105%未満	△
90~100%以下	○
90%未満	◎

3-2 計画に基づく施策（【帳票2】個別事業に関する進捗状況等）

(1) 個別事業進捗状況自己評価結果一覧表

所属	事業NO.	事業名	計画との比較
広報広聴課	7	広報紙への環境啓発記事の掲載	b) ほぼ計画通り
防災安全課	44	コミュニティバスの整備拡充	b) ほぼ計画通り
防災安全課	46	地域公共交通総合連携計画に基づく公共交通の利用促進	b) ほぼ計画通り
市民活動推進課	19	事業所向け中規模太陽光発電システム(10kW以上)整備への支援	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	2	集合住宅のスマートコミュニティ推進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	3	高齢者にやさしいコンパクトシティの整備	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	6	資源循環・エネルギー自給に関する市民の啓発	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	10	リユースびん商品の普及	c) 計画より遅れている
環境モデル都市推進課	13	省エネルギー診断の推進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	14	低炭素型ライフスタイルの提案（節電対策）	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	15	民間事業者の省エネルギーの推進（周知・啓発）	c) 計画より遅れている
環境モデル都市推進課	16	民間事業者の省エネルギーの推進（インセンティブ）	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
環境モデル都市推進課	18	太陽光発電普及促進事業補助	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	19	事業所向け中規模太陽光発電システム(10kW以上)整備への支援	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	20	太陽熱利用システムの普及促進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	22	家庭用燃料電池設置補助	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	23	民間事業所（医療機関、福祉施設等）向けコージェネレーションシステム整備への補助	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	26	バイオマスタウン構想に基づく取り組みの推進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	27	新電力・地域エネルギー会社の設立検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	28	居住継続性能住宅の開発促進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	29	I C Tを活用した市域の温室効果ガス排出削減政策の検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	30	H E M S 導入支援(戸建て住宅向け)	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	31	M E M S 導入支援(集合住宅向け)・B E M S 導入支援(事業者向け)の検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	33	エネルギーの面的需要を管理するC E M S の導入検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	34	情報サービス・新規コミュニティサービスの導入検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	35	資源循環の拠点としての「エコパーク21」のあり方について検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	36	地域コミュニティ単位で、資源循環の拠点となる発電・熱・CO2生産設備導入の検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	37	CO2を活用した野菜・果物の栽培支援の検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	38	地産地消サイクルの構築検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	39	奈良県やけいはんな学研都市との連携によるEVステーションの設置、I C Tを活用したEV利用環境の整備促進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	40	市の公用車や既存コミュニティバス等のEVへの更新	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	41	超小型モビリティの導入検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	42	バイオガス・天然ガス・水素ガス車への転換と、エコエネルギーステーションの開設検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	45	自転車利用の促進・市民の健康増進	b) ほぼ計画通り
農林課・商工観光課	19	事業所向け中規模太陽光発電システム(10kW以上)整備への支援	c) 計画より遅れている
農林課・商工観光課	38	地産地消サイクルの構築検討	c) 計画より遅れている
農林課・商工観光課	45	自転車利用の促進・市民の健康増進	b) ほぼ計画通り
環境保全課	8	ごみ減量市民向け啓発	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
環境保全課	9	フリーマーケット等の開催	b) ほぼ計画通り
環境保全課	57	ゴミ半減プランに基づき、平成32年度までに21年度比で、家庭系可燃ごみを半減（家庭ゴミ有料化の実施など）	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
健康課	45	自転車利用の促進・市民の健康増進	b) ほぼ計画通り
管理課	47	市道の適切な維持管理 <橋梁定期点検>	b) ほぼ計画通り
管理課	47	市道の適切な維持管理 <橋梁予防保全>	b) ほぼ計画通り
都市計画課・学研推進室	2	集合住宅のスマートコミュニティ推進	b) ほぼ計画通り
都市計画課・学研推進室	3	高齢者にやさしいコンパクトシティの整備	b) ほぼ計画通り
建築課	4	省エネルギーフォーム支援	b) ほぼ計画通り
建築課	50	開発行為における環境配慮	b) ほぼ計画通り
みどり公園課	48	公園整備や野外イベントの開催など、市民が自然と触れ合う機会の拡大	b) ほぼ計画通り
みどり公園課	49	緑の基本計画、景観計画に基づく緑化の推進	b) ほぼ計画通り
みどり公園課	51	市民向け生垣助成	b) ほぼ計画通り
みどり公園課	52	緑被率、緑視率指標の導入と向上	b) ほぼ計画通り
下水道課	53	合弁処理浄化槽設置推進	b) ほぼ計画通り
下水道課	56	効率的な汚水処理施設整備基本計画に基づき、平成30年までに72.9%普及	b) ほぼ計画通り
竜田川浄化センター	54	浄化センターでの市民啓発	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
上下水道部総務課	12	飲料用容器包装の削減（マイボトル持参促進）	c) 計画より遅れている
上下水道部総務課	12	飲料用容器包装の削減（水道水利用啓発）	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
上下水道部 浄水場	21	上水道施設での小水力発電	b) ほぼ計画通り
教育総務課	58	教育施設における再生可能エネルギー・省エネ設備の導入	b) ほぼ計画通り
教育指導課	59	環境・エネルギー学習プログラムの検討	b) ほぼ計画通り
教育指導課	60	エコスクールへの応募（グリーンフラッグの取得）	b) ほぼ計画通り
教育指導課	61	環境教育の担い手育成	b) ほぼ計画通り
教育指導課	62	全小中学校での環境教育の実施	b) ほぼ計画通り
生涯学習課	11	市民向け環境講座の実施	b) ほぼ計画通り

(2) 監査結果まとめ

今回の監査では、(1)に記載している自己評価による進捗状況を用いて以下の算出方法により4段階の仮評価をつけ、ヒアリング実施結果をふまえて本評価を決定する方式を採りました。従って、ヒアリングを実施していない所属については、進捗評価ではなく、「評価できる点」「改善を要する点」について、全所属にコメントを付しました。(3-3も同様)

<仮評価算出方法>

①所属ごとの自己評価による計画の進捗を以下の評点区分に基づき点数化し、点数区分ごとの取組数をかけて合計点数を算出

評価	点数
a) 計画に追加/計画を前倒し/ 計画を深掘りして実施	2点
b) ほぼ計画通り	1点
c) 計画より遅れている	0点
d) 取り組んでいない	-1点

②各所属によって取組数が異なるため、算出した合計点数を取組数で割って指数化

③指数を以下の区分に応じて4段階で評価

評価区分	仮評価
110～	◎
90～109	○
70～89	△
～69	×

<仮評価一覧>

所属名	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施	b) ほぼ計画通り	c) 計画より遅れている	d) 取り組んでいない	取組数	合計点数	評価指数	仮評価
広報広聴課		1			1	1	100	○
防災安全課		2			2	2	100	○
市民活動推進課		1			1	1	100	○
環境モデル都市推進課	1	27	2		30	29	97	○
農林課・商工観光課		1	2		3	1	33	×
環境保全課	2	1			3	5	167	◎
健康課		1			1	1	100	○
管理課		2			2	2	100	○
都市計画課・学研推進室		2			2	2	100	○
建築課		2			2	2	100	○
みどり公園課		4			4	4	100	○
下水道課		2			2	2	100	○
竜田川浄化センター	1				1	2	200	◎
上下水道部総務課	1		1		2	2	100	○
浄水場		1			1	1	100	○
教育総務課		1			1	1	100	○
教育指導課		4			4	4	100	○
生涯学習課		1			1	1	100	○
総計	5	53	5	0	63	63		

<ヒアリング監査実施後の本評価>

ヒアリングを実施した結果、1つの所属においての本評価が×から△に変更になりました。評価が上がった理由は次のとおりです。

- ・農林課・商工観光課

農林課は他所属との連携による地産地消の取組を進めているほか、商工観光課でも環境に配慮した自転車マップを作成して啓発を行っていること。

所属名	仮評価	本評価
市民活動推進課	○	○
環境モデル都市推進課	○	○
農林課・商工観光課	×	△
環境保全課	◎	◎
健康課	○	○
みどり公園課	○	○
下水道課	○	○
上下水道部総務課	○	○

3-3 エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況

【帳票3】エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況

監査結果まとめ

エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況については、取組目標を設定した上で進捗状況を報告する【帳票3】と、全職員に共通したエコオフィスの取組と独自施策の実施状況を自己評価する【帳票3（別紙）】の2帳票に基づき監査を実施しました。

- ・帳票3

帳票3の評価方法については、取組目標が適切な数設定されているか、意欲的に取り組む姿勢があるか、という視点で3段階による仮評価をつけた後、ヒアリング実施所属については取組の内容・実施状況をふまえ、基準を設けた上で、4段階で本評価を決定する方式を採りました。

<仮評価算出方法>

取組項目設定数	3段階評価
6以上	◎
3以上	○
2以下	×

<仮評価>

全ての所属が設定の条件数としていた3項目以上の目標設定をおこなっており、条件の倍以上である6項目以上の目標を設定している所属も44（前年度40）ありました。

【取組項目設定数6以上の所属一覧】

所属名	取組項目設定数
契約検査課	10
市民活動推進センター	10
環境モデル都市推進課	7
環境保全課	6
消費生活センター	6
小平尾南児童館	6
福祉センター	21
生駒山麓公園	16
下水道課	7
上下水道部総務課	6
教育支援施設	6
あすか野小学校	7
生駒小学校	6
鹿ノ台小学校	6
桜ヶ丘小学校	7
生駒東小学校	8
生駒南小学校	7
生駒南第二小学校	11
生駒中学校	7
生駒南中学校	6
上中学校	7
緑ヶ丘中学校	6
生駒幼稚園	6
生駒台幼稚園	8
俵口幼稚園	6
なばた幼稚園	9
桜ヶ丘幼稚園	9
南こども園（みなみ保育園・南幼稚園）	6
中保育園	6
生駒ふるさとミュージアム	6
鹿ノ台ふれあいホール	8
芸術会館美楽来	7
生駒駅前図書室	6
図書会館	6
スポーツ振興課	12
小平尾南スポーツ施設	6
総合公園スポーツ施設	7
北大和スポーツ施設	7
イモ山公園スポーツ施設	6
滝寺公園スポーツ施設	6
むかいやま公園スポーツ施設	6
井出山公園スポーツ施設	9
生駒北スポーツセンター	17
消防本部予防課	7

<本評価算出基準>

取組の内容、実施状況	4段階評価
独自の工夫が凝らされている/新しい取組である/大きな成果を挙げている	◎
妥当な取組がなされている	○
取組に改善を要する点が見られる	△
取組の改善点が多数あり改善の姿勢も見られないため勧告を要する	×

<ヒアリング監査実施後の本評価>

ヒアリングを実施した結果、本評価が2つの所属において○から◎に、また、1つの所属で○から△に変更になりました。

評価を変更した理由は次の通りです。

(本評価が上がった所属)

・いこまの魅力創造課

本来業務の情報発信の中で、環境に関する情報を積極的に発信したこと。
パソコンを活用したペーパーレス会議を実施し、ミーティング効率をあげていること。

・大瀬中学校

会議資料及び家庭連絡をメール配信で行いペーパーレスの取組を定量的に進めていること。

(本評価が下がった所属)

・消防署 南分署

エコオフィスの取組みで、定量的な把握が十分なされていなかったこと。

所属名	仮評価	本評価
清掃リレーセンター	○	○
小平尾南スポーツセンター	◎	◎
花のまちづくりセンターふろーらむ	○	○
真弓小学校	○	○
生駒中学校	◎	◎
いこまの魅力創造課	○	◎
営繕課	○	○
環境モデル都市推進課	◎	◎
たけまるホール	○	○
上下水道部総務課	◎	◎
生駒南中学校	◎	◎
あすか野幼稚園	○	○
会計課	○	○
壺分小学校	○	○
生駒小学校	◎	◎
健康課	○	○
農林課・商工観光課 (旧 経済振興課)	○	○
光明中学校	○	○

所属名	仮評価	本評価
あすか野小学校	◎	◎
大瀬中学校	○	◎
消防署 南分署	○	△
環境保全課	◎	◎
清掃センター	○	○
みどり公園課	○	○
テレワーク&インキュベーションセンターイコ マド	○	○
生駒駅前図書室	◎	◎
やすらぎの杜 優楽	○	○
総務課	○	○
市民活動推進課	○	○
消防本部予防課	◎	◎
市民活動推進センター	◎	◎
下水道課	◎	◎
スポーツ振興課	◎	◎
エコパーク 21	○	○
生駒南小学校	◎	◎

・帳票3（別紙）

帳票3（別紙）に記載の取組を、「実施した」、「実施していない」、「該当しない」の中から選択してもらうことで、実施率を把握しましたが、「実施していない」と「該当しない」の判断基準が明確ではなかった等の声がありました。

そこで、評価方法としては、ヒアリング時に詳しく話を聞くこと等によって概ねどの程度の実施がなされている状況かを確認した上で評価を決定しました。

実施状況 (%)	評価
概ね 90 以上	◎
概ね 60～89	○
概ね 30～59	△
概ね 29 以下	×

所属名	本評価
清掃リレーセンター	◎
小平尾南スポーツセンター	◎
花のまちづくりセンターふろーらむ	○
真弓小学校	○
生駒中学校	◎
いこまの魅力創造課	◎
営繕課	◎
環境モデル都市推進課	◎
たけまるホール	◎
上下水道部総務課	◎
生駒南中学校	◎
あすか野幼稚園	◎
会計課	◎
壱分小学校	◎
生駒小学校	◎
健康課	◎
農林課・商工観光課（旧 経済振興課）	◎
光明中学校	◎
あすか野小学校	◎
大瀬中学校	◎
消防署 南分署	◎
環境保全課	◎
清掃センター	○
みどり公園課	◎
テレワーク&インキュベーションセンターイコマド	○
生駒駅前図書室	◎
やすらぎの杜 優楽	○
総務課	○
市民活動推進課	◎
消防本部予防課	◎
市民活動推進センター	○
下水道課	◎
スポーツ振興課	◎
エコパーク 21	◎
生駒南小学校	◎

4. 次年度方針への反映事項

(1) 平成 30 年度公共施設における数値目標

平成 29 年度の目標達成状況や市の環境関連施策の状況等をふまえ、専門チーム会議で審議し、平成 30 年度の公共施設における数値目標及び評価基準を次のように設定しました。

目的	項目	平成 30 年度 目標	
地球温暖化の防止	二酸化炭素排出量の削減	市の事務・事業から排出される二酸化炭素排出量の総量を 2010（平成 22）年度比で 15.3%以上削減する。（1,150t-CO ₂ 相当）（※）	
	電気使用量の削減	電気使用量を 2010（平成 22）年度比で 15.3%以上削減する。（2,307 千 kWh 相当）	
	公用車	ガソリン	ガソリン使用量を 2010（平成 22）年度比で 16.0%以上削減する。（12,421 ℓ 相当）
		軽油	軽油使用量を 2010（平成 22）年度比で 60.0%以上削減する。（37,576 ℓ 相当）
	燃料	都市ガス	都市ガス使用量を 2010（平成 22）年度比で 12.0%以上削減する。（29,817kg 相当）
		重油	重油使用量を 2010（平成 22）年度比で 20.0%以上削減する。（57,280 ℓ）
		灯油	灯油使用量を 2010（平成 22）年度比で 21.0%以上削減する。（6,317 ℓ）
		L P G	LPG 使用量を 2017（平成 29）年度比で増加させない。（※2017（平成 29）年度実績：58 t）
循環型社会の構築	紙類使用量	OA 用紙の使用量を 2017（平成 29）年度比で 3.0%以上削減する。（※2017（平成 29）年度実績：66,333kg）	
	ごみ排出量	ごみの排出量を 2009（平成 21）年度比で 50.0%以上削減する。（39,947kg 相当）	
健全な水循環	水使用量	水使用量を 2017（平成 29）年度比で増加させない。（※2017（平成 29）年度実績：213,251 m ³ ）	

（※）環境モデル都市アクションプランの中期目標である 2030（平成 42）年度 35%削減（2006（平成 18）年度比）を最終目標としている。最終目標を達成するために 2018（平成 30）年度から毎年度均等に削減することが必要と考え、目標を設定する。

(2) 帳票 3 における優良事例の整理

帳票 3 で提出された取組の中から次の①～③の観点で優良事例を抽出しました。抽出した事例は、平成 30 年環境マネジメントシステム運用方針の「過去の優良事例一覧」に追加し、全所属での水平展開につなげます。

<抽出の観点>

- ① 独自の工夫が凝らされている ②新しい取組である ③大きな成果を挙げている

所属等		所見
総務部	総務課	廃棄書類を焼却処分から溶解処理に変更し、紙のリサイクルの新しい取組を行ったこと。
地域活力創生部	環境モデル都市推進課	新たな取組みとして、市民団体と協働でフードドライブに取組み、食品ロス削減を推進したこと。
地域活力創生部	いこまの魅力創造課	会議テーブルに設置したディスプレイを使ってのペーパーレス会議の実施や環境情報を随時 SNS で発信したこと。
市民部	環境保全課	生ごみ削減において、エコクッキングやキエーロの普及促進、他市との連携による取組を推進したこと。
市民部	エコパーク 21	飲料の購入をペットボトルから粉末溶解に変更し、その意義を定量的に見える化して、職場で共有意識を周知されたこと。
生涯学習部	スポーツ振興課	指定管理者にエコオフィスの取組を提案させ、契約更新時にチェックシートで提案内容の進行管理を行ったこと。
生涯学習部	小平尾南スポーツ施設	地域と連携して、花の育成や堆肥作りによる地域循環の取組を行ったこと。
教育振興部	あすか野小学校	会議資料や学校便りをメール配信してペーパーレス化を図り、定量的な把握がされて、大きな成果を挙げたこと。
教育振興部	大瀬中学校	生徒の椅子の下に雑巾を掛けて、ティッシュペーパー代わりに雑巾を使用することで、紙ごみの排出量削減を図るなどの独自の取組みを行ったこと。
教育振興部	生駒中学校	古制服や古シューズを対象に他の学校とも連携して幅広くリユースに取組んだこと。

5. 次年度の運用における改善点

今年度の運用において、以下のような改善点がありましたので、次年度の運用方針等に反映することが望まれます。

システムの運用について

- ・環境マネジメントシステムの運用期間（実質的に1年間ではなく、半年間）などの運用時期の工夫が必要。
- ・環境マネジメントシステムの運用について、評価方法の検討を行う時期に来ている。

ヒアリング監査について

- ・書面監査のみでは、帳票に記載された内容のチェックしかできない。独自施策等の取組状況を正確に把握するには、現場のヒアリングが最も重要となるので、ヒアリング対象施設をもっと増やすことが望まれます。
- ・エコ推進責任者、エコ推進員が同時異動で、現場の運用状況が十分つかめない部署もあったことから、環境専用ファイルを作成し、業務の引継ぎができるよう運用方法を検討する必要がある。

優良事例について

- ・成果に対する評価にばらつきがあるので、優良事例の基準になる目安を統一する必要がある。

帳票について

（書式に関すること）

- ・帳票3の記載内容だけでは、目標の達成状況の判断が難しい取組み項目が多かったため、帳票2と同様に、「目標水準」欄を設けてはどうか。
- ・設問がマンネリ化している。初期のエコオフィスで取組んできたことを整理する時期ではないか。

（記入方法に関すること）

- ・帳票3別紙の記入方法について、積極的に実施しているのか、一部だけ実施しているのか、判断しにくいことから、「積極的に実施した」、「一部実施した」、「実施していない」、「該当しない」の4つの選択肢から選び、評価に反映させてはどうか。

添付 1. エコオフィス、本来業務における環境配慮項目の実施状況【帳票 3 別紙 集計結果】

分野	項目No.	取組	平成29年度実施状況
(全職員に共通した取組) エコオフィスの取組	1	職場内で省エネルギー(電気、ガス、灯油などの利用削減や効率的利用)に取り組む	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>【照明】業務や市民サービスに支障がない範囲で、間引き消灯や昼休み消灯を実施する。</p> <p>【照明】時間外勤務や休日勤務時は、必要な箇所のみ点灯する。</p> <p>【照明】窓側や廊下で十分な採光が確保される場合は、消灯する。</p> <p>【パソコン・機器】パソコンの節電対策を徹底する。</p> <p>【パソコン・機器】昼休みや長時間自席を離れるときなど、パソコンを使用しない時は、電源を切る。</p> <p>【パソコン・機器】シュレッダー等常時使用しない機器類は、使用するとき電源を入れ、使用後は必ず電源を切る。</p> <p>【パソコン・機器】退庁時には、パソコン本体、プリンターの電源を必ず切る。</p> <p>【パソコン・機器】最後に帰る人は、パソコン、コピー機等電気機器類の電源の切り忘れがないかを確認する。</p> <p>【パソコン・機器】階段の使用を励行し、エレベーターの使用をできるだけ控える。</p> <p>【夏季・冬季節電対策】空調の室温設定は、夏期28℃、冬期19℃とする。</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>
	2	職場内で節水や排水時の環境負荷低減に取り組む	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>洗面所やトイレの使用の際には、必要以上に水を流さず節水に努める。</p> <p>水道の使用後は、水栓の止水を確認する。</p> <p>せっけん、洗剤は必要な量だけ使う。</p> <p>食器を洗う時は、必要以上に水を流さず節水に努める。</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>
	3	職場内で紙使用の抑制再利用サイクルに取り組む	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>両面印刷、縮小印刷機能の活用を徹底し、紙の使用量を減らす。</p> <p>使用済み用紙(片面使用済み用紙)の裏面活用を徹底する。</p> <p>コピー機の横に使用済み用紙をストックできる容器を設置する。また、設置する場合は、「片面使用済み用紙」「両面使用済み用紙」を分別して回収する。</p> <p>コピー機の使用後は、次に使用する人がミスコピーをしないように、必ずリセットボタンを押す。</p> <p>プリントアウトするときは、 unnecessary部分まで印刷しないよう、よく確認して必要な部分のみ印刷する。</p> <p>簡易な供覧については、プリントアウトしないでメールで送るなど、庁内LANを活用する。</p> <p>会議資料等は工夫してできるだけ簡素化し、作成部数の適正化を徹底する。</p> <p>印刷物は、配布先や内容を精査し、必要最小限のページ数、部数とする。</p> <p>使用済み封筒は、庁内で活用する。</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>

4	<p>職場内で廃棄物の発生抑制 再使用リサイクルに取り組む</p>	<p>平成27年4月の家庭系ごみ有料化に伴い、率先垂範してごみ減量を徹底する。</p> <p>ごみの分類については、「ごみ・リサイクル資源の分類及び排出方法」を基準として、各所属で分類方法を決定し、エコ推進責任…</p> <p>ファイル等は、可能な限り再利用する。</p> <p>びん、缶、ペットボトルなどは、所定の場所に設置されたリサイクルボックスに出す。</p> <p>個人用のごみ箱は撤廃し、ごみ箱を共有する。</p> <p>プラスチック製容器包装について分別を徹底し、資源化する。</p> <p>個人情報が含まれた文書を大量に処分する場合でも、できる限り焼却処分せずにシュレッダー処理をし、資源化する。</p> <p>各所属の事業に伴うごみや、一時的に多量に出るごみについては、事業系指定袋を各所属で購入する。</p> <p>会議等での飲料は原則提供しない。</p> <p>会議等の開催前に参加者には必要に応じてマイボトル等を持参してもらうように呼びかける。</p> <p>長時間に及ぶ会議など、飲料が必要となる場合には、会場の隅に湯茶やリユースびん入り飲料と湯飲みやガラスコップなどと…</p> <p>イベント等会議以外で飲料を提供する場合についても、上記の趣旨を尊重し、リユース容器の使用に努めること。</p> <p>事業に伴い発生する食品廃棄物の量を減らす。</p> <p>事業に伴い発生した食品廃棄物は可能な限り再生利用する。</p> <p>■ 1.実施した ※ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>
5	<p>職場で使う製品のグリーン購入（再生紙、環境配慮型製品の使用など）や地場産品の購入に取り組む</p>	<p>物品の購入にあたっては、まずその必要性をよく検討し、必要と判断した場合は、適正な量をよく検討した上で購入数量をできるだけ抑制する。</p> <p>物品を購入する際には、環境負荷の低減を図るため、環境に配慮された物品を優先的に調達する。</p> <p>コピー機やプリンターのトナーについては、リサイクル可能な商品を購入する。また、使用後は回収業者に回収してもらう。</p> <p>電化製品などの新規購入や買い替え時には、製品に表示されている省エネラベルなどを参考にし、省エネ性能に優れた製品を購入する。</p> <p>使い捨て製品は、できるだけ購入を控える。</p> <p>不要な袋や包装は断り、簡易包装での納品を要請する。また、その旨を仕様書に明記する。</p> <p>■ 1.実施した ※ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>
6	<p>公用車利用による環境影響の抑制（職員の勤務中の公用車利用の抑制、エコドライブ、自転車の利用や低公害車の導入など）を実施する</p>	<p>公共交通機関を利用できる場合は、公用車の使用を控える。</p> <p>近距離では、公用自転車を利用する。</p> <p>公用車を使用する際には、できるだけ低公害車や燃費のよい車を優先的に利用する。</p> <p>環境モデル都市推進課の所有する電気軽自動車を積極的に活用する。</p> <p>農業委員会の保有する電気自動車（バン）を積極的に活用する。</p> <p>急発進急加速や空ぶかしはしないで、燃費の向上に努める。</p> <p>3分以上停車することが予想されるときには、アイドリングストップを励行する。</p> <p>運転前点検時には、タイヤの空気圧が下がっていないか確認する。</p> <p>走行経路を精査し、無駄な走行を無くす。</p> <p>可能な場合は、相乗りをするよう心がける。</p> <p>公用車の新規購入にあたっては、低公害車を積極的に導入する。</p> <p>■ 1.実施した ※ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>

7	職員の通勤時の直接的環境影響の低減(マイカー使用の抑制、エコドライブ、公共交通機関や自転車の使用など)を実施する	<p>近距離の通勤にはなるべく徒歩又は自転車を利用する。</p> <p>通勤にはなるべく公共交通機関を利用する。</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>	
8	庁舎施設内に常在する者(施設管理者、食堂、売店スタッフ等)に環境配慮の要請をする	<p>【要請内容】社用車の環境に配慮した運転の励行(アイドリングストップや急発進急加速の禁止等)</p> <p>【要請内容】省エネ、省資源、ごみ減量への取組</p> <p>【要請内容】その他、業務営業等における環境への配慮</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>	
9	庁舎施設へ出入りする事業者に環境配慮の要請をする	<p>【要請内容】物品納入の場合には、過剰な包装はしないこと。</p> <p>【要請内容】物品納入時の包装容器の持ち帰り</p> <p>【要請内容】弁当などの空容器の回収</p> <p>【要請内容】職員への unnecessary 個別チラシの配布自粛</p> <p>【要請内容】社用車の環境に配慮した運転の励行(アイドリングストップや急発進急加速の禁止等)</p> <p>【要請内容】その他、業務営業等における環境への配慮</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>	
10	公共施設の利用者に対し環境配慮の要請をし、その状況を確認する	<p>【要請内容】電気ガス冷暖房等の消し忘れの確認やごみの持ち帰りなどの呼びかけ</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>	
11	その他エコオフィスの取組	<p>実施した所属数</p> <p>その他エコオフィスの取り組み</p>	
(各 独 自 署 の 環 境 施 策 組 成)	12	公共施設における再生可能エネルギー(太陽光、風力、バイオマスなど)の活用を検討し、導入する	<p>実施した所属数</p>
	13	公共施設において環境配慮型設備の設置更新(高効率省エネ型設備、断熱化、緑化など)を検討し、導入する	
	14	再生可能エネルギーの利用や省エネルギー活動を実践することにより、災害に強い低炭素型のまちづくりを進める	
	15	環境負荷の少ない移動手段の確立を進める	
	16	健全な水循環や、清らかな水辺環境の維持回復を進める	
	17	森林農地の持つ環境保全機能を維持し、生物多様性の保全創造を進める	
	18	廃棄物の排出や有害物質の使用を減らし、資源の循環利用を進める	
	19	地域資源の活用や地域間連携による産業育成やまちづくりを進め、食糧や主要な資源の自給度を高める	
	20	本来業務における環境配慮	
21	その他独自施策		

添付2. 監査結果のフィードバック（所属別）

・ヒアリング実施所属

所属名	評価結果			評価できる点	改善を要する点
	計画に基づく施策の進捗状況	エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況	エコオフィス、本来業務における環境配慮項目の実施状況		
総務課（旧 情報政策課を含む）	－	○	○	安全運転及びエコドライブ励行の講習会の実施、廃棄行政書類のリサイクル手法の導入、仮想PC用サーバー構築による省エネなど、環境負荷低減に意欲的に取組まれている点が評価できます。	目標設定等で、第三者が見て達成状況がわかるように、定量的な状況把握も工夫してください。
会計課	－	○	◎	口座振替依頼書の書式変更に伴う現行書式の廃棄部数を、在庫把握によって、最小限に抑えるよう努められた点が評価できます。	紙使用量について可能な限り、定量的に進捗が把握できる数値目標を意識して計画を立ててください。
市民活動推進課	○	○	◎	集会所等における太陽光発電設置補助の普及啓発で、自治会ハンドブックを更新して取組まれた点が評価できます。	①目標設定時には、可能な限り、定量的に進捗が把握できる数値目標を意識して計画を立ててください。 ②構内で使用する容器の工夫など、どんどこまつりのごみ削減に向けた取組に努めてください。
市民活動推進センター	－	◎	○	ボランティア交流スペースや会議室に電気使用量の比較表やごみ持ち帰りの貼紙をするなど、利用者に向けて環境配慮の呼びかけに取組まれている点が評価できます。	各取組で数値目標を設定して進捗状況を把握するようにすると、効果が見えるようになります。検討をお願いします。
いこまの魅力創造課	－	◎	◎	①会議スペースにディスプレイを設置し、積極的にペーパーレス会議を実施されている点が評価できます。 ②環境に関する情報発信も積極的に実施されています。	今後も、環境を含めた市の魅力発信に努めてください。
環境モデル都市推進課	○	◎	◎	①地域エネルギー会社を設立させ、計画前倒しで、民間事業者へ電力供給を開始し、電力の地産地消に取組まれた点が評価できます。 ②フードドライブを実施し、フードバンクを通して福祉施設等に届け、食品ロス削減に寄与した点が評価できます。	電気自動車を共用車として利用する仕組の検討をお願いします。
農林課・商工観光課（旧 経済振興課）	△	○	◎	①地産地消サイクルを構築するため、地元野菜の給食センターでの利用を検討されている点が評価できます。 ②地域版自転車マップを配布し、自転車利用促進を図られている点が評価できます。	①農業ビジョンで取組もうとしていることが実現するように期待します。 ②再生可能エネルギーシステム設置の融資に関して、積極的なPRをおこない、実績につながることを期待します。
テレワーク&インキュベーションセンターイコマド	－	○	○	利用者の利便性に配慮しながらも、節電に努められている点が評価できます。	エコオフィスにおける環境配慮項目の実施状況で実施されていない項目があります。取り組めるものがないか再度確認の上、できることから実施してください。
環境保全課	◎	◎	◎	エコッキング教室で食材を無駄なく使い、食品ロス削減に取組まれた点が評価できます。	廃棄物エネルギー活用計画に基づき、環境モデル都市推進課と連携して効果的な方法を検討してください。
清掃センター	－	○	○	紙使用について高い目標を設定されており、目標は未達ですが、削減に向けて取組を徹底された様子が窺えます。	①電気使用量の目標について、指標（過去最大使用電力）と目標レベルが妥当なのか確認し、次回の目標を設定してください。 ②プラごみの分別等、職場におけるエコオフィスの啓発・研修を定期的におこなってください。 ③施設へ出入りする事業者の環境配慮実施状況を確認し、必要に応じて要請をしてください。
清掃リレーセンター	－	○	◎	①施設利用者へのアドリリングストップ、エコドライブの声掛けを行い、省エネと環境影響抑制に積極的に取組まれている点が評価できます。 ②家具のリユースにも前向きに取組まれています。	リユース活動のさらなる促進による廃棄物削減に期待しています。
エコパーク21	－	○	◎	環境配慮型製品を積極的に購入している点が評価できます。	①マイボトルの活用促進に向けたさらなる検討を期待します。 ②目標設定で第三者が見て達成状況がわかるように、定量的な状況把握も工夫してください。
みどり公園課	○	○	◎	市民の森事業による小学生向けの環境教育や花とみどりの楽校による人材の育成など環境保全活動を継続的に取組まれている点が評価できます。	花とみどりの楽校を修了した人が活躍できる場の創出支援等、フォローアップを期待しています。
花のまちづくりセンターふららむ	－	○	○	花壇等への散水に地下水や雨水を積極的に活用され、プランターからナチュラルガーデンに切り替えられるなど、節水に取組まれている点が評価できます。	
営繕課	－	○	◎	トイレ設備更新時に環境配慮型の節水トイレ、自動感知LED照明及び省エネ型空調機器などを積極的に取込み、環境負荷低減を図った点が評価できます。	施設改修において、今後も効率的な設備への転換を進めてください。
下水道課	○	◎	◎	工事竣工図面の電子データ化による紙使用削減に向けた取組は、本来業務における改善策として評価できます。	各取組で数値目標を設定して進捗状況を把握するようにすると、効果が見えるようになります。検討をお願いします。
上下水道部総務課	○	◎	◎	エコオフィスの取り組みで、目標を全てクリアしており、積極的に取組まれている点が評価できます。	個別事業では、給水スポットの認知度向上とマイボトル持参を促進する具体策の検討を期待します。

所属名	評価結果			評価できる点	改善を要する点
	計画に基づく施策の進捗状況	エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況	エコオフィス、本来業務における環境配慮項目の実施状況		
健康課	○	○	◎	ウォーキングマップ24コースをリニューアルし、新コースで歩こう会の企画をしたり、「いこマイウォーキングクラブ」を実施するなど、環境配慮イベントを実施されている点が評価できます。	今年度は4分の1のエアコンを更新されましたが、来年度以降、20年以上経過したエアコンを全て更新できるよう、検討をお願いします。
真弓小学校	—	○	○	雨水タンクを積極的に利用し、節水に取組まれている点が評価できます。	
巻分小学校	—	○	◎	目標や進捗状況を定量的に把握されており、環境負荷の低減に意欲的に取り組まれている点が評価できます。	目標未達成の取組については、他の取組事例を参考にしながら、次回の目標を設定してください。
生駒小学校	—	◎	◎	環境講話や読書週間、エコキッズの環境教育など、児童に対する環境問題の意識づけを継続実施されている点が評価できます。	他校の優良事例を参考に、グリーンフラッグ取得や地域住民と連携した環境活動も検討してください。
あすか野小学校	—	◎	◎	児童にも意識的にエコの指導を行い、積極的に節電、節水、紙の使用量削減に取り組まれ、削減実績につなげている点が評価できます。	目標を立てる際には、児童数の増加を踏まえて数値の設定ができればよいと思います。
生駒南小学校	—	◎	◎	日中の明るさに応じて室内、廊下、体育館を消灯し、節電に取り組んだ点が評価できます。	目標設定で第三者が見て達成状況がわかるように、定量的な状況把握も工夫してください。
生駒中学校	—	◎	◎	近隣小学校とも連携し、制服・体操服・シューズのリユースを推進している点が評価できます。	
生駒南中学校	—	◎	◎	ごみ拾い活動や花を植える活動など、地域住民やPTAと連携を図り、環境活動に取り組まれている点が評価できます。	紙の使用量の具体的な管理の検討が望めます。
光明中学校	—	○	◎	紙の購入量や電気の使用量を正確に把握されている点が評価できます。	電力使用量4%増加及び紙使用量22%増加の要因を分析した上で次回の取組目標を設定してください。
大瀬中学校	—	◎	◎	環境美化委員会による節電、節水、ごみの削減及びエコキャップ回収運動に取り組まれている点が評価できます。	
あすか野幼稚園	—	○	◎	毎週木曜日のリサイクルでいて、園児を参加させて分別収集に取り組まれ、独自のスタイルでリサイクル意識の高揚を図っている点が評価できます。	電気、水道、紙の使用量及びごみの排出量について、できる限り数値目標の設定をお願いします。
たけまるホール	—	○	◎	電気、ガス、水道使用量を正確に把握され、削減理由も分析されている点が評価できます。	可能な限り目標を数値化し、進捗状況を来館者に見える化することで、さらなる啓発を期待します。
生駒駅前図書室	—	◎	◎	除籍図書のリユースコーナーを常設にし、廃棄図書をゼロにした点が評価できます。	レインフォレスト・アライアンス認証コーヒー豆の導入で環境保全への取組をサポートされていることについて評価できますが、認証について、市民に向けた分かりやすい説明が望まれます。
やすらぎの杜 優良	—	○	○	調理業者に対するごみの減量化や残渣の食品リサイクルなど環境負荷抑制につながる協力要請に取り組まれています。	水以外の使用量を把握されていませんでしたので、まずは正しく使用量を把握し、環境行動につなげてください。
スポーツ振興課	—	◎	◎	スポーツ関連9施設を4事業者に指定管理しています。環境マネジメントについて契約時の提案どおりに実施できているか、年度末に独自のチェックシートを用いて管理している点が評価できます。	数値目標の達成状況をパーセントで管理されていますが、より精度のある数値を検討してください。
小平尾南スポーツ施設	—	◎	◎	①地域の農家との連携による菜の花などの育成と堆肥化を進めるなど、高い意識で環境活動に取り組まれている点が評価できます。 ②アイドリングストップ推進にも積極的に取り組まれています。	
消防署 南分署	—	△	◎	① リサイクルボックスを設置して随時分別状況を確認し、ごみの分別を積極的に取り組まれている点が評価できます。 ② 周辺の美化清掃活動を継続されて取り組まれている点で評価できます。	目標設定時には、可能な限り定量的に効果が把握できる数値目標を設定してください。
消防本部 予防課	—	◎	◎	節電、節水、紙の使用量削減に向けて積極的に取り組まれ、具体的な改善策を打ち出されている点が評価できます。	各取組で数値目標を設定して進捗状況を把握すると、効果が見えるようになります。検討をお願いします。

・書面監査のみの所属

所属名	評価できる点	改善を要する点
秘書企画課（旧 秘書課、旧 政策企画推進課）	①公用車運行時のエコドライブの徹底、公共交通機関の利用に配慮している点が評価できます。 ②節電、ごみ削減に努めた点も良いと思います。	生駒市総合計画における環境配慮の充実強化を期待しています。
消費生活センター	節電・ごみ削減を実行されています。	紙使用量が増加した要因を確認し、削減に向けた取組目標を設定してください。
ベルテラスいこま自動車駐車場	①駐車場への壁面緑化の維持継続による緑の保全を実施している点が評価できます。 ②施設内のごみ箱を撤去し、ごみの発生を抑制している点も良いと思います。	管理が大変だと思いますが、今後も壁面緑化の取組を維持継続してください。
市民課	①コピー用紙購入量についての目標を達成した点が評価できます。 ②電動自転車の利用により、CO2排出削減に取り組まれている点も評価できます。	電子化の推進による各種証明書の発行は、省エネにつながる点も良い取組ですので、引き続き推進してください。
小平尾南児童館	緑のカーテンづくりとともに、苗木を花のまちづくりセンターから入手し、雨水利用により花壇を充実した点が評価できます。	子どもたちが環境についての関心を深める取り組みを期待しています。
デイサービスセンター幸楽	電気、水、紙の使用量削減に努めた点が評価できます。	
地域包括ケア推進課	物品購入に当たっては必要量を吟味し、都度グリーン購入を実施している点が評価できます。	役所内だけでなく、関係する事業者に対する環境配慮事項の要請をお願いします。
生駒市立病院	それぞれの目標に対し、具体的な数値目標を立てて取組まれています。	各種使用量について、引き続き経年変化を確認しながら、取組を進めてください。
竜田川浄化センター	デマンド監視システムを導入し、最大使用電力を抑制、また本来業務における環境配慮として、設備の間欠運転により電力削減を達成した点が評価できます。	小学生を対象とした施設見学について、工夫を凝らした説明による啓発に期待しています。
教育支援施設	①緑化の推進や動植物の世話を通じて自然環境を理解する取組を進められている点が評価できます。 ②省エネ・紙使用削減の取組を徹底して実施されています。	
生駒南第二小学校	エコ委員会による手作り分別ポスターを貼るなど、学校を挙げて分別資源化を実施している点や、エコ川柳を作り、省エネ意識を高めた点が評価できます。	学校及び地域の協力も含めて更に環境教育を進め、グリーンフラッグの継続的な挑戦をしてください。
教育指導課	エコスクールの推進（グリーンフラッグの取得）で3校が取得済、また全小、中学校での環境教育を実施した点が評価できます。	グリーンフラッグ取得推進を継続して支援してください。
小平尾保育園	夏祭りのエコレジャー、エコかるた大会など、多くの環境イベントを実施し、園児や保護者へのエコ意識の向上につなげた点が評価できます。	今後も保護者や地域と連携して環境活動を盛り上げてください。
生駒幼稚園	みどりのカーテンをつくり、子どもたちが日陰の涼しさを体感したこと、また、ECO-net賞を受賞されている点が評価できます。	
生涯学習課	市民向けの環境講座の一環として、いこまこ教室やふるさとミュージアムでのイベント時に、自然でかつ身近にあるものを活用している点が評価できます。	
南コミュニティセンター	施設利用者に対して、適切な環境配慮要請・啓発を実施されています。	本来事業の一環として今後更に市民への環境配慮要請を進めてください。
むかいやま公園スポーツ施設	①両面印刷の徹底により、大幅に紙使用を削減した点が評価できます。 ②テニスボールを回収し、幼稚園等の遊び道具としてリユースを進めている点も素晴らしいです。	公園スポーツ施設として独自活動を継続して実施してください。
消防本部 警防課	①公用車の使用についてはエコドライブを徹底していることに加え、電動自転車の活用を実施している点が評価できます。 ②清掃美化活動を継続して実施し、河川の汚濁防止や景観の保全に努められている点が評価できます。	

所属名	評価できる点	改善を要する点
広報広聴課	①個別事業の取組みで、環境イベント記事を目標を大きく上回る13回も掲載し、市民が環境を意識する多くの機会を発信・提供している点が評価できます。 ②エコオフィスの取組の中で職場内のごみ量を目標以上(38%)に削減した点も評価できます。	紙使用の多い業務の中で、他所属の優秀事例や取組み事例を参考に、可能な範囲で使用を抑制する工夫をお願いします。(2UP印刷、ペーパーレス化など)
生駒駅前自転車駐車場 生駒駅前第2自転車駐車場	水道使用量を節水努力により目標より少なくした点が評価できます。	帳票3別紙の取組で、実施していない項目が多いように見受けられます。できることから取組を増やしてしていくよう検討をお願いします。
契約検査課	①帳票3の取組で10項目に目標設定があり、また帳票3別紙で「実施していない」が2項目と少なく、環境取組への積極的な姿勢が評価できます。 ②予備書類をデータ化することにより大幅な紙使用量を削減できた点が評価できます。	帳票3の次回の取組について、課題を洗い出し改善につなげることを期待します。
課税課	ごみ排出量が前年比14%減と多様な取組の成果が見られます。今後の継続と更なる工夫に期待します。	紙使用量が対前年比増となっていますが、他所属の取組事例などを参考に更なる工夫をお願いします。(2UP印刷、ペーパーレス化など)
男女共同参画プラザ	廃棄物の発生抑制で職員のマイボトル使用、分別収集、また、施設利用者にはごみの持帰りを徹底し、成果を上げている点が評価できます。	①帳票3別紙の取組で、実施していない項目が20個と多いように見受けられます。できることから取組を増やして行って下さい。 ②紙の使用量については数値化して改善につなげて下さい。
高齢施策課	分別を徹底し、ごみ排出量が前年比55%減と成果が見られます。今後の継続と更なる工夫に期待します。	①帳票3別紙の取り組みを多く実施していますが、本来業務における環境配慮やその他独自施策への展開も検討をお願いします。 ②ごみの排出量削減理由で、どの種類のごみが減ったのか分析され、次回のごみの減量に繋がることを期待します。
ディサービスセンター寿楽	不必要なFAXを印刷しないように取組み、紙の使用量を抑制した点が評価できます。	帳票3別紙の取り組みで、実施していない項目が多いように見受けられます。できることから取組を増やして行って下さい。
介護保険課	ごみの分別を徹底し、ごみ排出量を昨年度より7.8Kg減少させ成果を出している点が評価できます。	①帳票3別紙の取り組みを45項目実施していますが、本来業務における環境配慮やその他独自施策の検討もお願いします。 ②紙の使用量については、可能な限り取り組みの効果がわかるように数値目標の設定が望まれます。
国保医療課	紙使用量の抑制に取り組み、コピー用紙購入量を前年比40%削減し、成果を出している点が評価できます。	①帳票3別紙の取組を56項目実施していますが、本来業務における環境配慮やその他独自施策の検討もお願いします。 ②紙の在庫量を精査したうえで、次回の数値目標の設定が望まれます。
都市計画課・学研推進室 ・住宅政策室	「学研北生駒駅中心地区まちづくり」事業で、地権者や事業者との協議・検討を計画通り実施している点が評価できます。	紙使用の抑制については、他所属の取組や優良事例を参考に検討をしてください。(会議時のペーパーレス化など)
俵口小学校	①エコオフィス活動は多様で具体的な取組をし、電力量は目標を上回らず、ごみの発生量も年間214kg(目標230kg)に抑制できている点が評価できます。 ②メールの文書をプリントアウトせずPC上で文書登録を行い、紙使用量を抑えた点が評価できます。	他校の優良事例を参考に、グリーンフラッグ取得や地域住民と連携した環境活動も検討してください。(通学路のクリーン活動、運動場の清掃など)
学校給食センター	ごみ分別方法のシートを敷地内7か所に掲示し、廃棄物抑制に取組まれている点が評価できます。	ごみ分別により、廃棄物の発生抑制がどのくらいできているのか、数値で確認する方法も検討してください。
なばた幼稚園	帳票3で独自施策6項目を継続して取組んでいる点が評価できます。	電気使用量、水道使用量、廃棄物発生量、紙使用量については、目標設定時に可能な限り、取組みの効果がわかる数値目標の設定が望まれます。
北コミュニティセンター	施設利用者に対しごみ持ち帰り案内や適温・消灯管理を設備・警備・清掃担当と協働し、関係者全員で取組まれている点が評価できます。	紙購入枚数の削減目標を職員へ周知する場合、実績累計推移と目標値をグラフ化し、朝礼時などで定期的に意識づけることも有効です。検討をお願いします。
滝寺公園スポーツ施設	紙使用量の抑制に取組み、前年比25%削減し成果を出している点が評価できます。	
井出山公園スポーツ施設	①エコオフィスの多様で具体的な取組に加え、プール放熱の防止策など業務上でも具体策に取組んでいて、環境への積極的な姿勢が評価できます。 ②項目4のリサイクル率100%達成が評価できます。今後も継続してください。	省エネルギーの取組について、他部署の優良事例などを参考に、さらに効果的な工夫をお願いします。
消防署 本署	①ごみの分別を徹底し、ごみの排出量を昨年度より12%減少させ成果を出している点が評価できます。 ②業務が特殊でありながら庁舎周辺の清掃美化活動を毎週1回行われていることも評価できます。	電気使用量・水道使用量・廃棄物発生量・紙使用量については、目標設定時に可能な限り、取組みの効果がわかる数値目標の設定が望まれます。

所属名	評価できる点	改善を要する点
人事課	①時間外削減のための業務効率化や管理職向けの様々な研修をされて、省エネ化につながっている点が評価できます。 ②源泉徴収票の電子交付移行による封筒・用紙の使用量各1,500枚削減も評価できます。	公用車を利用する際は、電気自動車を積極的に活用してください。
生駒駅南自転車駐車場	洗面所、トイレ等の節水に努め年間水道水使用量の目標を達成された点が評価できます。	ごみ箱の共有化、物品納入時梱包容器の持ち帰りの要請についての実施を検討してください。
財政経営課 (旧 財政課)	①昼休み消灯100%達成が素晴らしいです。 ②プラスチック製容器梱包分別の徹底により目標を上回って、ごみ排出量の削減達成も評価できます。	昼休みや長時間離席時のパソコン電源を切ることや省エネ性能に優れた製品の購入などを検討してください。
収税課	①ごみの分別を徹底されている点と照明やOA機器の節電をされているところが評価できます。 ②催告書送付に工夫を凝らし、効果的に紙類使用量の削減された点も評価できます。	出入り業者/会社への省エネ運転の励行、業務営業等における環境への配慮。この二つの項目の実施のご検討をお願いいたします。
金鶏の杜 倭苑	「節水」のポスターを貼り、来訪者への呼びかけ、スタッフの努力により前年比13%削減された点が評価できます。	高齢者が利用される施設なので難しい点もあると思いますが、室温を適切に調節して、電気使用量5%削減を目指してください。
障がい福祉課	不要な照明やOA機器などを節減し、コピー用紙も様々な工夫をして削減されている点が評価できます。	コピー用紙の使用量について、昨年度の見直しを実施し、5%削減を達成できるよう検討してください。
管理課	①紙、廃ブラの分別徹底により一般ごみ量を前年比10%削減された点が評価できます。 ②公用車利用の見直しによりガソリン使用量を前年比12%削減している点も評価できます。	出入り業者/会社への省エネ運転の励行、業務営業等における環境への配慮。 この二つの項目の実施のご検討をお願いいたします。
建築課	省エネリフォーム支援において目標件数を達成し、さらに、長期優良住宅の認定の推進において、目標件数を上回って達成されている点が評価できます。	
議会事務局	①OA機器の節電及び回覧文書や会議通知書のデータ化でペーパーレスを徹底されている点が評価できます。 ②データ配信、両面コピーの使用等によりコピー用紙の購入量12%削減を成功されている点が評価できます。	タブレット機器の導入を検討しているとの事ですが、ぜひ導入の実施を期待します。
水道工務課	①照明やOA機器の節電、びん、缶、ペットボトルなどごみの分別を徹底している点が評価できます。 ②両面使用、縮小印刷の実施によりコピー用紙使用量の大幅削減達成も良いと思います。	ごみ排出量が前年比3.6%増加しているとのことですが、原因を把握し、来年は削減できるように努めてください。
生駒台小学校	児童による環境保護活動が少しずつ実を結び、エコスクールとしての自覚が生まれ、保護者・地域の人との連携も進んできている点が評価できます。	①電気使用量が前年比1.3%増加しているので、削減の対策をご検討ください。 ②節水、紙使用抑制による数値が明記されていないので数値の把握、目標の数値化をお願いいたします。
こども課	新設こども園に太陽光パネル(15.36kW)設置し、再生可能エネルギーを導入された点が評価できます。	廃棄物発生抑制取組について、目標の7倍を超える実績に対し、改善策を検討してください。
生駒台幼稚園	LED電球使用、雨水タンク利用、裏紙の徹底、古紙回収、公共交通利用、アイドリングストップの徹底、制服・ボロシャツ等のリユース運動など、多くの環境配慮の取組を実施している点が評価できます。	電気使用量、水道使用量の実績を把握してください。
老幼幼稚園	①水道使用量3%削減、コピー用紙前年比削減している点が評価できます。 ②親子エコ教室を通じこどもはもちろん保護者にも分別の徹底を実施しているのも良いと思います。 ③エコキャップ収集によりワクチン40人分獲得も評価できます。	電気使用量の実績を把握してください。
生駒ふるさとミュージアム	①紙使用前年比22%削減した点が評価できます。 ②市民への環境を意識した教育普及活動を数多く実施された点が評価できます。	水の使用量が前年比4%増加しているので、削減の対策をご検討ください。
図書館	マイボトル持参率の向上、館内での廃油とカートリッジ回収の取組定着化が評価できます。	省エネについて、5%の削減目標に対し、電気11.8%、ガス22.7%と増加していますが、その改善について具体的方策が示されていないので、削減策を検討してください。
イモ山スポーツ施設	①両面印刷・裏紙使用等の徹底により、紙使用量2%削減の達成が評価できます。 ②キャップ回収箱取付けにより、エコキャップ回収率3%増も評価できます。	電気使用量、水道使用量の実績を把握してください。

所属名	評価できる点	改善を要する点
HOS生駒北スポーツセンター	水銀灯からLEDへの変更により、電気使用量月平均2.4%削減達成した点が評価できます。	①水道使用量の実績を把握してください。 ②イベント増に伴い紙の使用量増は理解できますが、内容を把握し、対策を検討してください。
生駒駅南自動車駐車場	施設利用者のごみ持帰りの推進や水道使用量の削減に取組まれ、目標を達成されています。	①業務や市民サービスに支障のない範囲で、従来の節電への取組みを検討してください。 ②紙の使用量削減については、可能な限り数値目標を設定し、定量的な進捗管理が望まれます。
人権施策課	近隣への出張時は公共交通機関の利用を原則とし、公用車の利用を削減した点が評価できます。	エコオフィスの取組で実施していない項目については、その要因を把握して、必要な場合は関連部署の協力を得ながら取組んでください。
RAKU-RAKUはうす	節水目標の設定や、ごみゼロ目標を掲げごみ箱を撤廃し、利用者のごみの持ち帰りを推進するなど、環境負荷低減に前向きに取組まれている点が評価できます。	
福祉センター	省エネ、省資源、再利用など、きめ細かく環境負荷低減に取組み、職員及び施設利用者にて徹底している点が評価できます。	電力使用量の増加要因が一時的なものなのかを含め、目標レベルが妥当なのか検証したうえで、次回につなげてください。
事業計画課	廃棄物の発生抑制に関して、目標以上に削減できた点が評価できます。	帳票3別紙の取組で実施していない項目については、その要因を把握して、必要な場合は関連部署の協力を得ながら取組んでください。
監査委員事務局	目標の数値化や進捗状況の把握、増加原因の分析がなされています。	
浄水場	① メールによる部内会議を実施し、資料をプリントアウトせず、紙の使用量削減に取り組んでいる点が評価できます。 ② 公用車の車内間仕切りを設置し、空調効率を高め、燃費を向上させる取組も評価できます。	①
桜ヶ丘小学校	電気・水道使用量、ごみ排出量の把握及び増加の原因分析をされていること、みどりのカーテン育成、雨水タンク活用、古紙回収など意欲的に環境活動に取り組まれている点が評価できます。	
生駒東小学校	エコキッズやゲストティチャーによる環境教育、みどりのカーテンによる省エネ学習、花壇の水やりでの雨水タンク活用など、環境教育や環境行動に積極的に取り組まれている点が評価できます。	
鹿ノ台中学校	グリーンフラッグの再取得を達成し、保護者、地域住民に対して各種エコ活動の啓発を進められている点が評価できます。	
緑ヶ丘中学校	廊下、トイレの消灯やペットボトルキャップ収集などの環境活動を生徒会の自発的な行動に繋がるよう指導している点が評価できます。	
ひがし保育園	職員の劇による環境教育の実施やごみの分別収集、公園の掃除・草引きなど、職員と園児が一緒になって環境活動に取り組まれている点が評価できます。	
俵口幼稚園	保護者と連携して、牛乳パック、アルミ缶、ペットボトルキャップの資源ごみ回収や幼稚園制服、古着のリユースなど、積極的に取り組まれている点が評価できます。	
南こども園	①ごみ排出量や用品使用量を表にして見える化を図り、廃棄物の発生抑制に取り組まれている点が評価できます。 ②エコロンジャー、絵本の読み聞かせ、太陽光発電パネルの仕組み等の映像紹介など、リサイクルやエネルギー、物を大切にする環境教育を積極的に推進している点が評価できます。	帳票3別紙の取組で実施していない項目については、その要因を把握して、必要な場合は関連部署の協力を得ながら取組んでください。
鹿ノ台ふれあいホール	廃食用油を回収し、リサイクル石鹸を配付することでごみの減量化に取り組まれている点が評価できます。	帳票3別紙の取組で実施していない項目については、その要因を把握して、必要な場合は関連部署の協力を得ながら取組んでください。
総合公園スポーツ施設	①施設利用者に対して、アイドリングストップなどの環境配慮要請に取り組まれている点が評価できます。 ②施設内の落ち葉から肥料を作り、市民へ配布するなど、自然資源を有効活用している点が評価できます。	電気使用量削減に向け、アリーナ内のトイレ、更衣室等のセンサー式照明の設置検討を期待します。
消防本部 総務課	①会議出席の際など、公用車乗り合わせに積極的に取り組まれています。 ②節電、節水、空段ボール等の再利用など、環境活動に取り組まれている点が評価できます。	

所属名	評価できる点	改善を要する点
消防署 北分署	節電、紙使用抑制など、環境活動に取り組まれている点が評価できます。	職場で購入する物品のグリーン購入の検討を期待します。
防災安全課	① 緊急災害時の備蓄品（カンバンなど）を賞味期限前に訓練時の炊き出しや保育園のおやつに計画的に利用し、食品ロス削減に努められている点が評価できます。 ② コミュニティバスの利用促進に関して、地元自治会と連携して啓発活動を効率的に取り組まれている点が評価できます。	① 目標設定時には可能な限り達成状況が把握できるよう、定量的な数値で設定してください。 ② 帳票3別紙の取組で実施していない項目については、できることから実践してください。
生駒駅北地下自動車駐車場	目標や進捗状況の評価も定量的に把握され、エコオフィスの意識が浸透している点が評価できます。	今後はさらに本来業務の中で独自の取組等、新たな項目にチャレンジしてください。
高山竹林園	間伐した竹の有効活用として、チップ化による雑草抑制や園内の竹棚への使用に取り組む、ごみの減量を図っている点が評価できます。	目標設定時には可能な限り、進捗状況が把握できる数値目標の設定が望まれます。
人権文化センター（別館含む）	施設利用者へ環境配慮要請の貼紙周知や花の育成活動の実施など、省エネに関する意識付けが浸透している点が評価できます。	目標欄に具体的内容が記載されていますが、目標や進捗状況は極力、定量的な数値把握できないか検討してください。
保護課	近距離移動における公用自転車又は原動機付自転車の優先的利用に取り組まれた点が評価できます。	目標欄に具体的内容が記載されていますが、目標や進捗状況は極力、定量的に記載してください。
地域医療課	会議の飲料提供時のリユース瓶利用に取り組まれています。	① 目標設定時には可能な限り、進捗状況が把握できる数値目標の設定が望まれます。 ② 両面印刷、縮小印刷、使用済み用紙の活用が実施できない要因を分析して、効果的な周知方法を検討してください。
土木課	工事施工時の再生資材の利用、廃材の再資源化施設への搬出など、リサイクルを徹底した点が評価できます。	① 目標や進捗状況評価は極力、定量的に把握できる数値目標が望まれます。 ② コピー用紙の使用量の削減について、部署内で再検討のうえ、効果的な対策を強化してください。
生駒山麓公園	業務の中で多くの課題を見つけ、積極的に取り組まれています。	① エコオフィスで実施していない項目については、できることから実践してください。 ② 目標レベルや達成状況が把握できるよう、目標設定は可能な限り定量的に設定してください。
教育総務課	① 教育施設に地中熱を利用した空調システムを導入した点が評価できます。 ② エコ運転の励行により、ガソリンの消費量を削減した点が評価できます。	紙の使用量について、目標や進捗状況は極力、定量的に把握してください。
鹿ノ台小学校	① 職員会議や打ち合わせをパソコンで行い、紙の使用量削減を図った点が評価できます。 ② 保護者や生徒も含め環境に対する意識を高められている点も評価できます。	目標や進捗状況評価は可能な限り、定量的に把握してください。
上中学校	生徒会活動や生徒会整美委員会活動、育友会等を巻き込んだ環境に対する配慮活動に意欲的に取り組まれている点が評価できます。	帳票3別紙の取組で、該当しない項目が多くありますが、取り組めるものがないか再度確認の上、できることから実施してください。
生駒北小中学校	回収意欲の高揚を図るため、ペットボトルキャップでオブジェの制作をするにあたり、育友会主催のバザーを開催して、リサイクルの推進を図っている点が評価できます。	① 帳票3別紙の取組で、該当しない項目が多くありますが、取り組めるものがないか再度確認の上、できることから実施してください。 ② 紙の購入量が大きく増加したことに関して、要因を明確にしたうえで、削減対策を再検討してください。
中保育園	節電、節水、リサイクルに関して、園児がわかりやすい工夫を凝らして取り組まれています。また、絵本を通じて環境教育を積極的に推進されている点も評価できます。	目標や進捗状況評価は可能な限り、定量的に把握してください。
桜ヶ丘幼稚園	年長組保護者に不要になった体操服、帽子、リュックサックなどの回収を呼びかけ、再使用（リユース）を図った点が評価できます。	目標設定時に、目標レベルや達成状況が把握できるよう、可能な限り定量的に設定してください。
子育て支援総合センター こどもサポートセンター	節電及び防災面から、電源プラグの電源をオフにする取組みは、他の部署でも利用できるすぐれた取組です。	目標設定時に、目標レベルや達成状況が把握できるよう、可能な限り定量的な数値で設定してください。
芸術会館	本来業務の中で課題をみつけ、解決策を検討されている点が評価できます。	帳票3別紙の取組の中で「該当しない項目」のうち、取り組めるものがないか再度確認の上、できることから実施してください。
北大和スポーツ施設	① 目標レベルや進捗状況の評価を定量的に把握し、未達成の原因も分析されて、今後の対策も検討されています。 ② 施設利用者へのアイドリングストップ励行の周知で、看板を増設するなど、積極的に取り組まれた点が評価できます。	

添付 3. 生駒市環境基本計画で掲げられている指標と目標（計画から抜粋）²

指標 1 二酸化炭素排出量 基準年 平成 18 年度 目標年 平成 30 年度

目標 全市域での二酸化炭素排出量（28.7 万 t-CO₂）を 14%削減し、24.7 万 t-CO₂にする。

指標 2 ごみ排出量 基準年 平成 19 年度 目標年 平成 30 年度

目標 家庭系ごみ排出量 1 人 1 日あたり排出量（673.2g）を 15%削減し、570.0g にする。

再資源化率 16.8%を 30.0%に向上させる。

事業系ごみ排出量 9,128t を 6,721t に削減する。

指標 3 公共交通 基準年 平成 19 年度 目標年 平成 30 年度

目標 鉄道利用者（19,210 千人）を、現状維持から 0.5%増にする。

路線バス利用者（5,078 千人）を、10%増（生駒駅、東生駒駅発着路線のみ）にする。

コミュニティバスなどの代替交通の新規路線を複数ルート実現する。

指標 4 河川水質 基準年 平成 19 年度 目標年 平成 30 年度

目標 竜田川の水質を、観測 4 地点の年間平均で BOD（生物化学的酸素要求量）5 mg/L 以下とする。

指標 5 参加人数 平成 21 年度以降の累計 目標年 平成 30 年度

目標 生駒市や生駒市環境基本計画推進会議が開催する講座・行事への参加者が、平成 21 年度から 10 年間の延べ人数で、生駒市の総人口である 11.7 万人（平成 19 年 10 月現在）とする。

² 計画の全文は、市ホームページを参照のこと。

生駒市環境基本計画 5 年目見直し版のページ <http://www.city.ikoma.lg.jp/0000000030.html>

添付 4. 生駒市エネルギービジョンで掲げられている目標と主な取組スケジュール（ビジョンから抜粋）³

■目標

(1) 行動目標（平成 42（2030）年度の都市イメージ）

『エネルギーを賢く利用し、安心・安全で持続的に成長できる都市』

・行政の目標

省エネルギーの促進及び再生可能エネルギーの普及を目指すとともに、エネルギーセキュリティを確保します。

・事業者の目標

CO₂排出量に応じた省エネ・創エネに努め、市や市民が取り組む活動に参加・協力します。

・市民の目標

「環境 No.1 都市」にふさわしいライフスタイルに転換し、住宅のエコ化や省エネ製品の選択に努めます。

(2) 数値目標

①平成 42（2030）年度（中長期）

省エネ行動（ライフスタイルの転換）及び建築物の効率化等により、市域のエネルギー消費量削減割合を平成 18 年の 20%以上とします。

また、市域の再生可能エネルギーの導入割合を平成 23 年度の 6 倍以上とするため、太陽光発電の普及率を平成 23 年度の 4.8%から平成 42 年度の 30%に引き上げます。

これらの省エネルギー及び創エネルギー施策により、平成 42 年度の電力需要見込みに対する太陽光発電による自給率は 15%を目指します。

②平成 30(2018)年度（短期）

省エネ行動（ライフスタイルの転換）及び建築物の効率化等により、市域のエネルギー消費量削減割合を平成 18 年の 5%以上とします。

再生可能エネルギーの導入目標について、賦存量の検討から計画期間内に導入が見込まれる太陽光発電について、平成 30 年度の目標数値を設定します。

平成 42 年度の目標値を元に、平成 30 年度における太陽光発電の目標普及率を 16.5%とし、設備容量の目標値を 13,791kW と設定します。これは平成 23 年度の 2.9 倍に相当します。

短期と中長期の数値目標

	短期 (平成 30 年度)	中長期 (平成 42 年度)
市域のエネルギー消費量削減割合(平成 18 年度比)	5%	20%
再生可能エネルギー導入割合(平成 23 年度比)	2.9 倍	6 倍
電力需要見込みに対する太陽光発電による自給率	-	15%

³ ビジョンの全文は市ホームページを参照のこと。

生駒市エネルギービジョンのページ <http://www.city.ikoma.lg.jp/0000000591.html>

■目標達成に向けた主な取組スケジュール

・省エネ対策

項目	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
① 省エネルギー対策の更なる推進					
1) 低炭素型ライフスタイルの提案		節電対策の継続			
	HEMS 導入支援策の検討	支援策の導入	HEMS の運用		
2) 民間事業者の省エネルギーの推進	省エネ支援策の検討		省エネ支援策の順次導入		
		省エネ対策の周知・啓発			
		エネルギー削減インセンティブの検討		モデル事業の実施	
3) エネルギーマネジメントシステム (EMS) の導入検討	導入支援制度の検討		支援制度の順次導入		
		公共施設調査	導入計画策定	順次導入	
			地域 EMS の導入検討		
② コージェネレーション等の普及促進					
1) 家庭用燃料電池 (エネファーム) 等の導入推進			助成の継続 省エネ技術の調査・研究		
2) 公共施設向けコージェネレーションの導入		市立病院への導入		運用	
	施設調査	導入先選定		順次導入	
3) 民間事業所向けコージェネレーションの導入支援		調査	支援策検討	支援策の導入	

項目	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
③ 建築物のエネルギー性能向上					
1) エネルギー効率の高い住宅への転換		省エネ改修補助の実施			
	中古住宅リノベーション体制の調査		支援策の導入		
④ 低炭素まちづくりの推進					
1) スマートコミュニティの誘致		スマートコミュニティ推進奨励金の交付			
2) 集合住宅のスマート化の検討	調査 検討		支援策の導入		
3) 低炭素推進区域の設定 検討		調査	モデル区域の検討		導入
⑤ エネルギー効率の高い交通手段の促進					
1) 生駒市に適したクリーンエネルギー自動車の導入 検討	公用車 に導入	公共用車両への導入検討			
				クリーンエネルギーステーション の導入検討	
		超小型電気自動車 等の調査		モデル導入	
2) コミュニティバスの運 行路線拡大	運行路線 の拡大		運行の継続・検証		
⑥ 環境教育・啓発の推進					
1) 教育施設における再生 可能エネルギー・省エネ設 備の導入		調査		順次導入	
2) 環境・エネルギー学習 プログラムの検討		調査・検討		モデル実施	

・創エネ対策

項目	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
① 太陽エネルギー					
1) 産業用太陽光発電システムの導入推進		現地調査など導入支援			
2) 家庭用太陽光発電システムの導入推進		導入の促進・支援			
3) 集合住宅用太陽光発電システムの導入推進		導入の促進・支援			
4) 公共施設及び自治会集会所への太陽光発電システムの導入推進	調査	公共施設等への順次導入			
		自治会集会所への補助			
	市民共同発電所の開設	取組の普及拡大、他都市との連携			
5) 遊休地を活用した太陽光発電システムの活用検討		調査・活用方法検討・提案			
6) 太陽熱利用システムの普及検討		現況調査		導入可能性検討	
7) ソーラーオブリゲーション導入の検討			調査		導入可能性検討
② バイオマス					
1) バイオマスを活用した発電・熱利用等の検討	バイオマス活用施設のあり方の検討		活用計画の策定		エネルギー活用のモデル実施
		各地域での取組調査・検討		モデル地区での導入	
2) ボイラー更新時におけるバイオマスボイラー情報の提供		調査・情報の提供			
③ 小水力					
上水道施設での小水力発電			継続運用		

・セキュリティ対策

項目	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
① 公共施設等への再生可能エネルギー導入促進（防災拠点の機能強化）					
1) 防災関連施設への再生可能エネルギー機器の導入	施設調査	市立病院への導入		運用	
		導入先選定		順次導入	
2) 民間事業所向けコージェネレーションの導入支援		調査	支援策検討	支援策の導入	
② 住宅へのエネルギーセキュリティ導入促進					
1) 居住継続性能住宅の開発促進	調査検討		支援策の導入		

生駒市環境モデル都市アクションプラン 概要版① 【全体構想及び取組体制】



生駒市の地域特性・課題・これまでの主な取組

地域特性

- ・大都市隣接の利便性を活かし、低層住宅を中心とした質の高い住宅都市として発展
- ・生駒山系に象徴される豊かな自然に恵まれた居住環境

これまでの主な取組

- 市民協働の取組の推進
- バイオマスの有効利用の推進
- 再生可能エネルギーの導入支援
- 省エネルギー対策の推進

生駒市における課題

1. 急速な高齢化への対応と若い世代の呼び込みを可能とする都市構造のグランドデザイン
2. 廃棄物問題への対応
3. 産業の活性化
4. 市民力のさらなる活用
5. 高齢化に伴う各種の課題への対応

低炭素型のまちづくりと、市民の利便性の向上、産業活性化、防災力の強化などを図り、課題に対応していくことで、住宅都市として一つのモデルとなるまちの実現を目指していく。

現状分析

市域の温室効果ガス排出量

・2008年度まで増加傾向であったが、2009年度以降は減少傾向に転じ、2010年度は基準年度(2006年度)と比較して6.9%減少した。

・部門別みると、家庭部門(41.4%)、業務部門(26.3%)、運輸部門(19.7%)、産業部門(10.4%)、廃棄物部門(2.2%)の順であった。

・住宅都市であることから、家庭と業務の民生部門が全体の大半(67.7%)を占めている。大幅に削減するためには、民生部門への対策を重点的に行う必要がある。

年度	排出実量	削減後排出量	削減量
2006 (H18) (基準年度)	30.5	28.4	2.1
2007 (H19)	30.7	28.4	2.3
2008 (H20)	31.0	28.4	2.6
2009 (H21)	30.7	28.4	2.3
2010 (H22)	28.4	28.4	0.0

部門別排出量 (単位: 万t-CO2)

年度	産業	家庭	業務	運輸	廃棄物
2006 (H18)	4.1	12.4	8.5	4.7	0.7
2007 (H19)	3.9	12.5	8.4	5.3	0.7
2008 (H20)	3.8	12.6	8.2	5.6	0.6
2009 (H21)	3.9	12.5	8.4	5.3	0.7
2010 (H22)	2.3	11.8	7.5	5.6	0.6

計画の位置づけ

・生駒市環境モデル都市アクションプランは、「地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編)」に相当するものとして位置づける。

第20条の3により規定

第5次生駒市総合計画後継基本計画
生駒市環境基本計画
生駒市エネルギービジョン

生駒市環境モデル都市アクションプラン
生駒市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)として位置づけ

生駒市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)

既存の行政計画

- 生駒市一般廃棄物処理基本計画
- 生駒市バイオマスタウン構想
- 生駒市都市計画マスタープラン
- 生駒市環境公共交通機関整備計画
- 生駒市エネルギービジョン
- …

関連する計画とアクションプランの位置づけ

地域モデル都市の取組

環境モデル都市の取組は、温室効果ガスの大幅な削減だけでなく、都市の新たな魅力や活力の創出などを実現するものである。生駒市は国内初の住宅都市における環境モデル都市であり、先導的な取組を行っていくことにより、まちの暮らしやすさやブランドイメージの向上、地域産業の活性化などを図り、社会的効果と経済的効果の好循環を生み出していく。

環境モデル都市の取組

1. 都市構造の再設計
2. 資源循環・エネルギー自給システムの構築
3. ICTを活用したコミュニティサービスの推進
4. 食のバリューチェーン構築
5. コミュニティ交通システムの再構築

社会的効果

- 人口の増加・人口の構成などへの向上
- 住居へのサービス、まちの暮らしやすさの維持・向上
- 取組への市民、事業者の参加

経済的効果

- 人的交流及び経済の循環
- 来訪者(転入、滞在、観光など)
- 地域外への販売(農産物など)
- 以上による雇用創出、経済波及効果

環境モデル都市の取組による社会的効果と経済的効果

取組体制・フォローアップ

・環境モデル都市の推進という観点から、「生駒市環境モデル都市推進本部」、「生駒市環境モデル都市推進協議会」を設立する。

・「生駒市環境モデル都市推進協議会」は、市民、学識経験者、民間企業などの保有する知見・ノウハウを活用し、取組の進捗状況、温室効果ガス削減量、地域活力の創出などの評価指標の目標値と実績の差異分析を含めた継続的なPDCAサイクルを構築する。

・取組が多岐にわたることから、取組の5つの柱に沿ってテーマ別のワーキンググループ(WG)などを設け、個別施策を推進していく。

・政策を横断的に展開するため、温暖化防止対策を総合的に担う「環境モデル都市推進課」を新設し、事務局として各取組の所管課のフォローアップ活動をマネジメントする。

市長を本部長として、理事者・各部長で構成

生駒市環境モデル都市推進本部

事務局

環境モデル都市推進課

市民、事業者、学識者、行政で構成

生駒市環境モデル都市推進協議会

取組テーマ別のWGなど ※個別施策の推進

各取組に関する団体、所管課で構成

フォローアップの体制

削減目標など

将来像

～市民・事業者・行政の“協創”で築く低炭素“循環”型住宅都市～

削減目標

◆CO₂の削減目標

中期目標 2030年度 **35%(約10.6万t-CO₂)削減**

長期目標 2050年度 **70%(約21.3万t-CO₂)削減**

※基準年度(2006年度)比

生駒市に特徴的な3種のゾーン

- 環境先進ゾーン**
資源循環の拠点となる「エネルギー&バイオセンター」において都市廃棄物を利用し、発生させる電気・熱・CO₂の活用方法を多様化させることで大幅なCO₂削減につなげる
- 住宅ゾーン**
昭和30年代から計画的に住宅地開発が行われてきたため、住宅エリアごとに構成世代が異なり、高齢エリアでは今後、空家が増加する可能性がある
- コンパクトシティゾーン**
生駒市において想定される超少子高齢社会に対応するため生駒駅・東生駒駅等主要駅周辺エリアが行政・経済の要となる

(万t-CO₂)

年度	排出実量	削減後排出量	削減量
2006 (基準年度)	30.5	28.4	2.1
2030	28.4	18.9	9.5
2050	28.4	8.2	20.2

温室効果ガス中・長期削減目標のイメージ

削減目標の達成についての考え方(中長期取組方針)

生駒市が抱える課題に対応するため、“循環”と“協創”をキーワードとした5つの柱に基づく取組を推進し、今後も増加が予想される民生部門を中心とした温室効果ガス排出削減を実現する。取組を推進していくにあたっては、高い環境意識をもつ市民の力を基盤としていく。

1. 「都市構造の再設計」
住宅・事業所を社会共有のストックとして捉え、高効率のストックを集中して整備するとともに、いかにしてより効率の高い住居・事務所に移ってもらうようにすることが重要である。
2. 「資源循環・エネルギー自給システムの構築」
地域の住宅及び事業所などにおける分散エネルギー源(太陽光発電システム、燃料電池、コージェネレーション、バイオガス発電)の導入・利用を促進し、災害時にも対応できるまちづくりを目指す。
また、地域に導入される分散型エネルギー源を面的に有効活用していくために、地域のエネルギー供給を管理する新電力・地域エネルギー会社の設立を検討する。
3. 「ICTを活用したコミュニティサービスの推進」
エネルギー利用の最適化を目的に構築される情報通信ネットワークについて、交通、医療、教育など他のコミュニティサービスにおいて活用していくことにより、高齢者、若年層、子育て世代、熟年層といった世代ごとのニーズに沿ったコミュニティサービスの多様化、コミュニティの形成を目指す。
4. 「食のバリューチェーン構築」
ICTを活用した農業の6次産業化による食のバリューチェーンを構築することにより、継続的な地産地消サイクルの確立を目指す。また、環境に配慮した安全・安心な野菜などの栽培を、教育や生きがいづくりといった地域づくりに活用していくとともに、これらの活動を通して「生駒ブランド」を確立し、地域外へ販路を拡大することにより地域経済の活性化に貢献することを目指す。
5. 「コミュニティ交通システムの再構築」
コミュニティ交通のサービス地域や内容を「都市構造の再設計」と連動させ、住みやすさの維持向上に繋げて行く。また、コミュニティ交通のサービス主体や内容を「ICTを活用したコミュニティサービスの推進」と連動させ、持続的なサービスの実施主体や基盤の確保に繋げて行く。

取組の5つの柱とそれを支える市民力

⁴ 全文については、市ホームページを参照のこと。 環境モデル都市のページ <http://www.city.ikoma.lg.jp/0000001440.html>